

こいぶみの前身「ひろしまる倶楽部」の表紙を飾ってくださったみなさんを、11年経過した今、再び訪れて「今」を話していただきました。



2008

生涯現役！ やっぱり農業は やめられない

安佐北区白木町
丸野 光男さん

10月に全線復旧したJR芸備線の井原市駅から車で10分の場所に丸野さんの圃場があります。白ネギ20a、大長ナス5a、ハウス3棟でホウレンソウなど、そして少量のキクを栽培しています。

56歳から就農した丸野さんは12月で85歳。現在も、花や野菜を育てることが日々の活力源です。

55歳まで自動車メーカーで技術系の社員として勤め、会社を早期退職。その後、ある店先で売られていた純白のキクの切り花に一目惚れをした丸野さん。そのキクを作る生産者に親株を分けてもらってキクづくりを始めました。5aから栽培をスタートさせ、最盛期には朝5時から収穫を始めて、午後3時の昼休憩まで休みなく働き、軽トラックで3杯分を毎日出荷していたそうです。その後、知り合いの生産者の勧めで、地域で生産に取り組んでいる大長ナスや白ネギなども栽培することになりました。

就農後は夢中で農業に取り組んできましたが、70歳を過ぎて体調を崩すことが多くな



2019

りました。「3日おきに新芽が出るキクを管理できなくなった」と大好きなキク栽培の規模を大幅に縮小。さらに、今年7月には心肺停止で病院に搬送されました。幸いにも8月には退院。それでも農業から離れることはなく、10月末に取材で訪れた丸野さんの圃場には、11月初旬に出荷を控える白ネギが順調に育っていました。

丸野さんに今後の展望を伺うと「生涯現役」の一言。さらに農業の魅力について「手をかければちゃんと応えてくれるところ」と目を輝かせて教えてくれました。5年前か

らは有機栽培にも挑戦しています。丸野さんの農業はこれからも続きます。



▲作業場入口に飾れた農産物品評会などの賞状。



▲使用頻度は減りましたが、愛着のある丸野さん愛用の剪定ばさみ。